

講師：官民合同企業支援チーム（関東経済産業局連携事業）
チーフコンサルタント 松本 英伸 氏



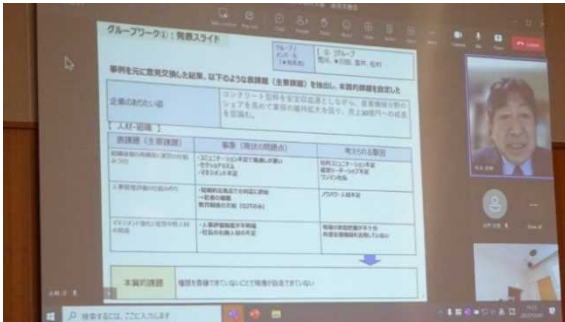
グループワークでは、参加者 17 名が 4 つのグループに分かれ、約 140 分の時間内で「経営力再構築伴走支援」の手法を用い、架空の企業に関する課題抽出から解決策を提案するまでの意見交換が行われました。

【参加者からの意見】

- 経営者に明確なビジョンや計画がなく、経営者と現場社員との意識や認識に乖離がある。経営者と社員が方針を共有できる経営計画の策定が必要。
- 経営計画の策定においては、外部支援機関への橋渡しによる伴走支援が必要。また、策定した経営計画の結果を振り返り、PDCA を回せるようにすることが必要。
- コミュニケーション不足により部門間の連携が図れていないことや情報発信体制が整っておらず、販路を拡大するための体制が構築できていない。
- 販路拡大に向けた営業体制の構築が必要であり、部門間の会議を定期的実施する等、他部門との情報共有を図り、連携を強化することが必要。

【講師の講評ポイント】

- 本グループワークは、正解があるわけでない。事例を題材に中小企業支援を担う地域金融機関の皆さんが闊達な意見交換をすること自体が重要。
- 課題抽出に際しては、各グループで色々な角度から推察・検討をされ、論理立てて設定されていることは素晴らしい。講師からは課題抽出の解答例を提示し、本質的課題としては社内のコミュニケーション不足や経営者自身の要因があったと設定した例を紹介。
- 課題解決に向けた意見交換では、具体的な支援機関等の例示があり、より自分事として伴走支援を捉えられていた。この点については、取組み課題選定の考え方や、実際に取組んだ課題として「中期ビジョン・中期事業計画の策定」や「幹部社員等の人材育成」を紹介し、それぞれの解決の方向性や本質的課題の解決も踏まえた取組の留意点を説明。
- 講師から実際の支援で適用した内容をレビューしたことにより、参加者は各グループの検討内容を踏まえ興味深く検証していた。



【上：熱心に議論を交わす参加者】

【下左：当日はオンライン形式による解説を実施】

【下右：各グループ代表者による発表と講師からの講評の様様】